

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

NEWS

No.129

2018.10



リハビリジャー、様々なイベントに登場

●三重県士会のホームページ で検索

●災害時連絡用メールアドレス

contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ：広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: kouhoumie@gmail.com

【巻頭言】

田中一彦 一般社団法人三重県作業療法士会 会長

【知人 de リンク】

鈴鹿回生病院 萩野 創

介護老人保健施設 嘉祥苑 濱口裕摩

【施設紹介】

リハビリ専門デイサービス エバーファイン 永田得郎

【参加報告】

【学会参加報告】

第29回三重県作業療法学会

【イベント参加報告】

三重県作業療法士会スポーツレクリエーション大会

三重県作業療法士会流しそうめん大会

リハレンジャー体験記

介護予防総合啓発イベント

志摩ロードパーティーハーフマラソン 2018

三重県ふれあいスポレク祭

【協会・士会主催会議、研修の参加報告】

「自動車運転に対する作業療法士の関わり」勉強会

三重県作業療法士会新人交流会

平成30年度学術部主催 第1回研究発表支援研修会

MTDLP 基礎研修

北勢ブロック学習会 SRH58

【研修会案内】

三重県災害リハ研修会

【県士会からのお知らせ】

教育部からのお知らせ

【勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について】

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/study/>

【賛助会員のご紹介】

日本モッキ 〒516-0008 伊勢市船江3丁目17-19 TEL.0596-65-6039

杉山木工 〒990-0401 山形県東村山郡中山町大字長崎字中原996-6 TEL.023-662-5295

【求人情報】

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

【編集後記】

三重県作業療法士会会員数 638名 施設会員 599名 自宅会員 39名

一般社団法人日本作業療法士協会の最近のトピックス

Topics



一般社団法人三重県作業療法士会 会長 田中一彦

日本作業療法士協会（以下協会）は、5年ごとに中期計画を作成しており、作業療法の道標としている。その重点的スローガンは第二次5カ年戦略（2013-2017）の「地域生活移行・地域生活継続支援の推進」から第三次作業療法5カ年戦略（2018-2022）「地域包括ケアシステムへの寄与」と医療・介護保険・障害者関連制度の情勢に合わせ対応してきている。

高齢者対応から始まった「地域包括ケアシステム」は、地域の子どもから高齢者までの全ての住民を対象とする仕組みの構築に向かっている。作業療法士もそれぞれの地域が抱える課題を把握しどのような貢献ができるかが問われている。今後は全ての疾患に対応していく必要があるが、中でも精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築を図り、地域移行・地域定着に寄与する作業療法のあり方を提示していく事が求められている。

平成30年度定時社員総会で、協会における「作業療法の定義」が33年ぶりに改定された。この改定は、日本に作業療法士が誕生してから50年以上経過し、昭和60年に制定した協会の定義では多様化する作業療法の職能を十分表現できなくなってきたためである。定義の全文を示すので、会員の皆様には作業療法実施時や啓発に活用していただきたい。

『作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。』注釈は、日本作業療法士協会誌第77・78号（2018年8月発行）に記載されているので一読されたい。

その他、重要事項として「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等改定」「臨床実習指導者講習会」「生活行為向上マネジメントの国民への広報」「就労支援」「作業療法の国際化」等々がある。最新情報は、協会ホームページ、協会誌に掲載されているので、活用していただきたい。

知人 de LINK

鈴鹿回生病院 萩野 創

こんにちは。介護老人保健施設嘉祥苑の山本結香先生からご紹介いただきました。鈴鹿回生病院、リハビリテーション課の萩野創です。山本さんとは、同じ時期に三重県の病院に実習生としてお世話になっていた時に知り合いました。その時は実習生が合計5名おりまして、実習終了時は全員で打ち上げをしたものです。

現在、僕は鈴鹿にある鈴鹿回生病院で勤務しています。リハビリスタッフはPT18名、OT10名、ST3名、AT2名、リハビリ助手4名が所属しており、毎日忙しくしております。急性期病院であるため、脳血管リハ、運動器リハ、癌リハ、それぞれ多くの患者さんがいらっしゃいます。僕は脳血管分野と整形分野を担当させて頂いています。今年で作業療法士4年目になりますが、間が悪く、仕事の覚えも悪い為、今でも毎日がドタバタです。

僕のプライベートですが、元々あまり趣味がない人間でしたので、帰省と入職に伴って、趣味探しを始めました。大学から始めた弓道に加え、カメラ、旅行、お酒と徐々に趣味を増やし、結果として、友人を沢山連れ立って、車に乗って、カメラを持って、一泊二日の旅行に行くのが一番の楽しみになりました。

旅行1日目は各地の名産品集め、その晩は団体割引された宿でご当地の酒や食べ物で宴会、2日目にのんびり名所を見て帰ります。とっても素敵な旅です。帰宅してからは、写真を見て思い出に浸ります。最近、友人たちの結婚に伴って参加者が集まり難くなっており、寂しさもあります。僕も早く結婚したい！

また、普段の土日はサオリーナの三重武道館にて、弓を引いております。ご一緒する機会があればよろしくお願いします。

知人でリンク、僕の紹介としては、リハレンジャーの活動で知り合った、多度あやめ病院の片岡浩士先生を紹介させて頂きます。よろしくお願いします。



介護老人保健施設 嘉祥苑 濱口裕摩

榊原温泉病院の原田幸恵先生から紹介していただいた介護老人保健施設 嘉祥苑の濱口裕摩です。原田先生とは専門学校時代の同級生で、実技や座学、国家試験の勉強で苦しみながらも何とか乗り切ったクラスメイトです。どこか柔らかな雰囲気、大変な時期でも周りの空気を和やかにしてくれる方でした。おそらく就職先でも同じように活躍されているのではないかと考えています。

私も3年目に入り、徐々に業務にも慣れて少しずつ出来る事も増えてきたように感じています。維持期のリハビリテーションはどの分野と比べても生活に一番近いので、そこを活かす事ができる作業療法士になりたいと思っはいますが至らない点も多く、毎日が勉強の連続です。色々と悩みながらも先輩の助けを受け、何とか毎日を過ごしています。利用者様は個性豊かで色々な方が通われており、お話を聞かせて頂くと人生の勉強をしている様で仕事の中の楽しみの一つとなっています。

プライベートに関しては、休みのタイミングを見ながら甲子園へ阪神タイガースの応援に行っています。なぜか私が応援に行くたびに負け試合が多く、雨の日が降る事も多いですが、そのような逆境にも負ける事無く一生懸命応援しています。最近見に行った試合は雨は降りませんでした。見事に逆転負けをし、悔しいスタートとなりました。いきなり負けはしましたが初勝利を目指して応援を続けていこうと思います。

今回は学生時代の同級生で最近結婚し子供も生まれた医療法人 木南会 熊野病院に勤めている伊藤大晃さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。



施設 紹介

リハビリ専門デイサービス エバーファイン



永田得郎

はじめまして。リハビリ専門デイサービス エバーファインの永田得郎です。

弊社は、2014年に桑名市西別所にオープンし、現在は開業5年目になりました。OTである代表社員が“充実したリハビリテーションを提供したい”という想いから、このリハビリ専門デイサービスを作りました。私自身、ここに就職して一年強と日は浅いですが、日々新しい発見と挑戦が出来て楽しく過ごしています。

退院後にリハビリテーションを継続したい方や、体力が低下して地域生活に不自由さが出現した方といった方々に対して、一人一人の目標に沿ったオーダーメイドなリハビリテーションを日々提供しています。また、桑名市の介護保険総合事業（くらしいき教室・いきいき訪問）にも初期から積極的に取り組み、通所と訪問を併用できる『くらしいき教室』や、利用日を自由に設定できる『いきいき訪問』、ケアマネージャー含めた関係各所の面々と『その人により適合した介護保険サービスを検討する会議（地域応援会議）』に関わらせて頂いています（病院勤務の方は“地域応援会議⇔地域版ケースカンファレンス”と言えば想像つきやすいでしょうか）。

社員は、現在6名在籍し、OT4名、Nrs1名、介護職員1名からなります。利用時間帯は一回3時間の午前制・午後制の二部構成です。定員数の18人の中で利用者様に希望曜日を選んで頂き、通所や訪問を行っています。

私は、10年程総合病院に勤める中で徐々に地域分野に



興味を持ちました。“退院後はどんな風に生活を送っているんだろう”という気持ちが募り、“いつか地域へ”と心に秘めていたところ、地元の四日市に戻る時にホームページでエバーファインを見つけました。そして、職場見学したその日に面白い施設と思えたため、見学したその場で「ここで働かせて下さい」と話したのを今も覚えています。

（病院勤務された方ならわかると思いますが）診療報酬改定により入院日数の縛りや外来リハビリの打ち切りがある中で、患者さんの“その後の地域生活”に一抹の不安や錯綜する思いを感じた人は多いのではないのでしょうか。今の私は、“その後の地域生活”を十分に見ることができています。

例えば今は、ある方には毎週自宅訪問して自宅ですくみ足を出現させない手すりの工夫を考えています。また、別の方には通所時に麻痺側の筋力向上とCOPD症状を減少させる運動を行い、訪問時に目標のかけつけ医院まで傘をさして歩く方法を考えています。これらの“千差万別の利用者ニーズ”に“実際の生活”が加わると、病院勤務では感じなかった『地域の難しさや奥深さ』を実感するようになりました。



参加報告

第29回三重県作業療法学会に参加して

総合心療センターひなが 作業療法士 大森達也

今回、初めて学会発表をしました。とても緊張しましたが、印象に残る学会になりました。臨床で直面している課題長期入院患者の体力低下や、作業療法士の職業的アイデンティティについての演題発表があり、新しい知見が得られ、日頃の臨床を考える良い機会となりました。また、他領域の発表では、演題内容だけでなく、プレゼンの仕方やまとめ方など勉強になり、良い刺激を受けました。

特別講演では、発達障害についての現状や治療介入、課題まで各方面で活躍されている先生からの講演は大変興味深く、シンポジウムでは発達障害に限らず私が作業療法士としてどんなことが出来るのか、患者さんにどう関わっていけば



よいかを考える良いきっかけとなりました。今後、臨床、研究に取り組んでいく上でのモチベーションとなり有意義な時間を過ごせた学会でした。



三重大学医学部附属病院 佐藤 和哉

2018年3月3日(土)に第29回三重県作業療法学会にて演題発表をしました。初めての発表であり、多くの場面で躓きましたが、実行委員会や職場の先生サポートにより、発表を行うことができました。発表自体は反省点が多くありましたが、他の先生の発表を聞くことで、様々な介入や視点、スライドの見せ方や工夫等を学ぶことができ、今後の臨床、研究活動に導入していきたいと思いました。

シンポジウムでは各領域の先生から発達障害を持つ方々

をどのように支援していくかを聴講しました。臨床では発達障害の患者様とコミュニケーションの面で難渋することが多々あるため、声掛けの仕方や患者様の想いなど、もう一度見直して関わっていきたいと思いました。

初めての発表活動であり、苦労した面も多くありましたが大変貴重な経験となりました。今回の学会のテーマである「OT is Perfect Performance for All People」を実現できるよう今後も努力していきたいと思ひます。

医療法人松徳会 花の丘病院 五十嵐大地

今回、私は初めて学会発表をしました。発表内容を整理する事で、上手くいった点や反省点を明確に示すことができ今後の臨床を振り返ることができた良い機会となりました。今回の発表で得た知識や課題を今後の臨床に繋げていけ

るように努めていきたいと思ひます。

また、他施設の作業療法士や同世代との交流を図ることができ、県士会活動の場を通して横の繋がりが持てたことも良い経験になりました。

三重県作業療法士会スポーツレクリエーション大会に参加して

桜木記念病院 辻本真子

2018年2月25日(日)に三重県作業療法士会スポーツレクリエーション大会に参加させていただきました。

今回は、北勢チームと南勢チーム、福利部チームでの総当たり戦で風船バレーを対戦しました。

公式に沿って行った風船バレーは、私が想像していた風船バレーとは違いとても難しく慣れるまで苦戦しました。

試合中は、ラリーが長く続いたり、風船の軌道が変化しアウトだと思ったら入っていたりと、ドキドキの試合で楽しく対戦することができました。

参加者のお子さんも含めて行い、小さい体ながらも力強いアタックや反射神経抜群なアプローチを行っていて、圧倒されました。お子さんのパワーのおかげで、より一層雰囲気も和みました。

今後、勉強会や行事に参加するにあたって、横のつながりを広げていき、臨床での疑問や悩みを聞いていただく機会も増えると思います。

今回の風船バレーを通して交流ができたのはとても貴重で大切なことであると感じました。今後もこのような機会があれば参加したいと思います。



松阪市民病院 柿本竜摩

今回、三重県作業療法士会開催風船バレーボール大会に参加させて頂きました。子どもから大人まで多くの方が参加されました。競技中は全部の試合が接戦で大人から子どもまで楽しく真剣になってできる競技でとても有義な時間を過ごせました。競技中笑い声と歓声は競技の最後まで途切れることはありませんでした。子どもたちの競技の上達ぶりが早く、大人が驚くほどでした。子どもの競技へ熱心に取り組む姿は大人の心を熱くさせ、楽しく競技を行う姿は大人の心を躍らせました。子どもたちと協力して風船バレーに参加することは競技の中での醍醐味の一つであると思いました。大人同士でも声を掛け合ってコミュニケーションを取りながら競技に参加できたため作業療法士同士での良い交流の機会であったと感じました。

今回の風船バレーボール大会は皆が楽しく話し合い、真剣に競技に協力し合っている良い競技だったと感じました。

今後機会がありましたらぜひ参加したいと思います。



「THE・夏!」流しそうめん大会開催

市立四日市病院 伊藤みなみ

2018年7月22日(日)、津市営リハパーク真見で三重県作業療法士会流しそうめん大会を開催しました。

当日は、猛暑の中でしたが会場の横に流れる川や風鈴、電車の音など自然の音に囲まれながら、「THE・夏!」が感じられました。

参加者は会員とその家族で、流しそうめん大会では、そうめんのほかにもミニトマトやグミなど、子供の好奇心をくすぐるものが用意されてきました。これらの物を取ろうと必死に奮闘するお子さんや参加者の姿に和み、癒され、にぎやかな会でした。また、食事をしながらという比較的ラフな環境だということもあるのか、臨床から子育ての話など幅広い話題が飛び交いました。そして、お腹がいっぱいになった後は、ルーレットでのプレゼント企画があり、親睦を深めつつ盛り上がりました。

個人的なエピソードですが、私は実習生の頃にお世話に

なった先生と会うことができ、久々の再会に話が弾むという、喜ばしい交流もできました。

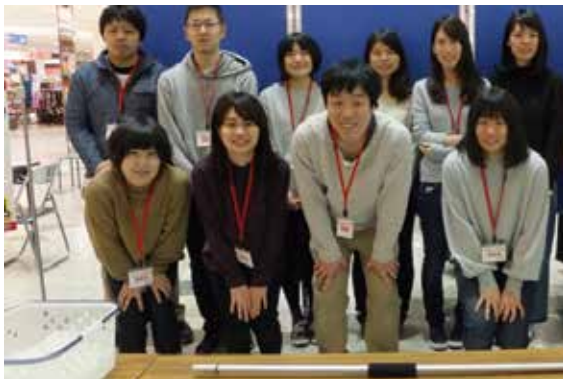
今回の企画を通じて、同じ三重県で働くOTやそのご家族の方との交流ができ、大変貴重な時間を過ごすことができました。また、開催されることがあれば、友人のOTなども誘って参加し、会員同士の繋がりを広げていきたいと思っています。



(参加報告) リハレンジャー登場



介護予防総合啓発イベントに参加して



<認知症予防コーナー>

長太の寄合所「くじら」 佐野 佑樹

認知症予防コーナーを担当しました佐野佑樹です。コーナーでは、鈴鹿市における医療や介護の話しができるカフェの啓発や認知症予防体験（回想法や昭和の遊び、色当て遊び）を行いました。また、講演では「家でもできる認知症予防」をテーマにお話ししました。カフェやOTのチラシ配布では約70名、体験では約20名、講演では約30名と、沢山の方々が来てくださり、とても嬉しく思いました。

「認知症になってもできることは沢山あること」や「今の生活を少し工夫するだけで予防に繋がること」、そして何よりも「してみたい事をして楽しい生活をする」の重要性をお伝えし、共感をいただいたことが嬉しかったです。ただ、地域の方とお話して感じたのは、「認知症になったらできなくなることが多いからなりたくない」との意見が多かったです。この言葉を真摯に受け止め、何ができるのかを考え行動することが地域で活動するOTの役割であると感じました。また、地域の方の生の声を聞いたり、お話ししたりするこの積み重ねが、



認知症になっても安心して自分らしく生活できる地域に繋がると信じ、今後も精進していきたいと思えます。



<吹き矢体験コーナー>

小山田記念温泉病院 森 順平

2018年2月18日(日)鈴鹿ハンターショッピングセンターにおいて「介護予防総合イベント」が開催されました。地域の方へのリハビリテーションに関する啓発活動を目的にリハビリテーション関連職種の紹介やアンケートならびにリハビリテーションに関する知識の伝達を行いました。

イベント内容としては、「腰痛予防」「転倒予防」「嚥下障害予防」「認知症予防」「スポーツ障害予防」などの講演と各ブースで体験活動を実施しました。理学療法ブースでは運動機能チェック、言語聴覚士ブースでは嚥下障害予防、作業療法ブースでは吹き矢の体験と作業療法に関するアンケートを行いました。

私は作業療法ブースで、受付やパンフレットの配布、リハレンジャーとして吹き矢体験に参加させていただきました。参加者にはまず、受付にて「作業療法」について簡単なアンケートに答えていただき、その後吹き矢体験を実施していただきました。また、参加して頂いた方には参加賞としてお菓子の配布も行いました。今年度は参加者132名(大人89名、子供43名)と多くの方に参加していただきました。

アンケートに回答して頂いた87組のなかでは「作業療法を知っているか」という設問に対して「知っている」と回答したのは42組、「知らない」と回答したのは45組という結果になりました。また、「作業療法が何をするのか」という設問に対しては「知っている」と回答した方が22組、少し知っていると回答した方が18組、「知らない」と回答した方が47組という結果になりました。今回のアンケート結果からは、作業療法を知っている方と知らない方の割合は半々であります。作業療法という職種は少しずつ社会に認知されていっているのではないかと感じました。こうした、地道な啓発活動を重ねさらに作業療法を知っていただく機会を設けていくことが重要だと感じました。

リハレンジャーとして、参加すると子供たちが喜んだり、一緒に写真を撮りたいと言って下さる方もみえ、楽しく吹き矢体験を行う事ができました。また、スタッフとして参加されていた先生方と交流できたことも貴重な経験となりました。

最後になりましたが、イベントに参加された皆様、実行員の皆様、本当にお疲れ様でした。

志摩ロードパーティーハーフマラソン 2018 の参加報告

桜木記念病院 三浦有紀

2018年4月15日(日)に志摩市で開催された志摩ロードパーティーハーフマラソン 2018 にリハレンジャーとして参加しました。今回の開催種目は5つあり、その中のバリアフリー専門コース「バリアフリーパーティラン」は伊勢志摩バリアフリーツアーズセンターにより企画・運営されており、私たちリハレンジャーはバリアフリー専門コースのマラソン参加者の方々の前でリハレンジャー体操を行いました。また、完走された参加者の方に完走賞を渡しました。天候はあいにくの雨でしたが、伴走の方と最後まで一生懸命に取り組まれる姿をみて、応援している私たちもとても勇気づけられました。さらに、参加者やご家族が握手をしてくださったり写真を撮ってくださったり、手を振ってくださったりとたくさんの方と楽しく交流ができました。多くの方にリハレンジャーを知っていただける良い機会となりました。今後もこのような機会があれば是非参加させていただきたいです。また、今後も継続して作業療法士の活動をどんどん地域の方々に啓発していきたいと考えています。



タレントの森脇健児さんと共に!!

三重県ふれあいスポレク祭に参加して

医療法人社団主体会 主体会病院

総合リハビリテーションセンター作業療法士 服部真里奈

2018年6月23日に四日市ドームで行われた三重県ふれあいスポレク祭にリハレンジャーとして参加させて頂きました。リハレンジャーとは、三重県作業療法士会創立20周年を機に作業療法の新たな啓発手段として考案され、多くの方にリハビリ・作業療法を知って頂くために様々なイベントに参加しています。

私も初めてリハレンジャーをさせて頂く機会を得ました。初めての事で、少し緊張していましたが、皆さんは温かく迎えて下さいました。リハレンジャーは競技の前に参加者の前でリハレンジャー体操を行い、その後、参加者の方たちと玉入れやパン食い競争などのスポーツ・レクリエーションを通して交流を図りました。リハレンジャーとして参加したことで、多くの方に声を掛けて頂き、一緒に写真を撮ったり、競技にも参加したり、笑顔を見ることが出来て嬉しく思いました。また、



藤井四日市市副市長とリハレンジャー



移動が車椅子で介助が必要な方でもリハレンジャーをじっと見つめたり、手を振って下さる方もいてありがたく感じました。

普段なかなか外出する機会が少ない方でもこういったイベントに参加する事で、他者との交流が増え社会参加に繋がると思いました。また、障がい者の方たちが集まるイベントが地域で行われることで、ご家族さんたちが情報交換を行う事ができ当事者だけでなく、その家族にもプラスに働くと感じました。

リハレンジャーが、今回参加された方たちの笑顔のきっかけになれば嬉しく思います。今まで障がい者の方のイベントに参加したことは数回程度ですが、リハレンジャーとして参加する機会を与えて頂いたことで普段交流の少ない地域の方との交流が出来ました。今回参加した事をきっかけに、これからもっと地域に貢献したいという気持ちになりました。



稲垣三重県副知事とリハレンジャー

【協会・士会主催会議、研修の参加報告 1】

「自動車運転に対する作業療法士の関わり」勉強会を開催して

三重県作業療法士会 運転と作業療法委員会 委員長
宮坂裕之

2018年2月24日(土)に藤田保健衛生大学七栗記念病院にて、一般社団法人三重県作業療法士会の運転と作業療法委員会主催の「自動車運転に対する作業療法士の関わり」勉強会を開催しました。まず始めに、2017年7月に県士会員を対象に行った自動車運転に関するアンケート結果(返信率46%)について報告しました。県内で自動車運転に関わっている施設は11施設であり、患者の社会参加やQOLに関わる立場として少ない印象を持っています。次に2017年2月に、日本作業療法士協会の同特設委員会が協会員からのパブリックコメントを集約し作成した「運転に関する作業療法士の基本的考え方」の読み合わせを行いました。この資料は脳損傷者を対象とした内容になっており、一般的な運転支援の流れや研究報告のレビューが掲載されており、若手作業療法士が運転支援について学ぶことができる内容になっています。また、作業療法士の関心が高い、神経心理学的検査の選定やカットオフ値は、文献ごとの基準はあるものの、それだけでは判断せず、患者の状態(運動機能や診断名、経過など)を詳細に把握した上で、運転再開を判断することが定石で、我々、作業療法士は、あらゆる知識を学習し

なければならないと考えています。

次に、本日のメインテーマとして参加者間の情報交換会を行いました。県内5施設の代表者がプレゼンし、症例検討や免許返納後の代替手段の紹介、自院での取り組みや課題について参加者及び施設ごとで意見交換を行いました。地域によって、移動手段に関する事情が異なり、施設の資源を最大限に活用しながら、運転再開や移動支援を行っていることが理解できました。最後は、七栗記念病院で使用しているドライビングシミュレータの体験があり、左下肢でのアクセル、ブレーキ操作や片手でのハンドル操作の練習として利用できることを紹介しました。今年度も同委員会の活動は継続しま

すので、より多くの会員の参加を促し、知識の研鑽に貢献できればと考えています。



三重県作業療法士会新人交流会

大台町介護老人保健施設みやがわ 山本雄太

2018年5月13日(日)に、三重県作業療法士会新人交流会が開催され、少しの時間ではありましたが多くの先生方の考え方に触れる良い機会となりました。

私は一年目の新人ですが、作業療法士となったからには利

用者様の生活のために何をすべきかを考えなければなりません。しかし、私は未だに頭が固く経験も少ないため、状況に応じた対応に不安があります。解決には経験を積むことも必要ですが他の先生方の意見を取り入れることも重要と考えます。今回の新人交流会では、様々な先生方の考え方に触れる機会がありました。

自分の目線とは違う考え方を交流を通じて知ることができる機会は私にとってとても有難いものでした。私は今後も他の方々と交流を持ち、様々な考え方に触れることでより良い作業療法士となれるように努力していきます。よろしくお願いたします。



【協会・士会主催会議、研修の参加報告 2】

平成30年度学術部主催 第1回研究発表支援研修会に参加して

国立病院機構榭原病院 小林未怜

2018年5月27日(日)に三重大医学部付属病院にて学術部主催の「研究発表支援研修会」に参加しました。第1回は「研究・発表を行うには?」というテーマで、研究の始め方や進め方の概要について講義をしていただきました。

以前までは「研究」と聞くと、難しいという感情が先立ってしまい身構えてしまっていました。今回の研修を受けて、日々の臨床で疑問に思ったことや興味をもったことが研究のテーマにつながっていくことを知りました。臨床での疑問や興味をそのままにせず、文献を読んで様々な視点から捉えていくこ

とが必要だと感じました。文献検索の方法やキーワードの選択の仕方などを知り、キーワード1つで出てくる文献が違うことに驚きました。また、1つの方法にとらわれず、何事も“やってみる”ということを感じ、当たり前のことですが、相手に還元することができるように、思うようにいかなければ別の方法を考えるということを再認識したように思います。

今回の研修で学んだことをもとに臨床での疑問に対して文献を読み、様々な視点で実践し、患者様に還元していくことができるように今後の臨床経験を積んでいきたいとします。

MTDLP 基礎研修

三重県作業療法士会 教育部部長 富中真悟

2018年7月8日(日)に生活行為向上マネジメント MTDLP (基礎研修)を開催しました。作業療法の定義が改定され内容に『生活行為』の文言が新しく追記されました。日本作業療法士協会が最も注力して取り組んだ事業です。毎年、基礎研修を開催しますので、対象者の生活行為を評価・実践できる専門家として研修会に受講してみてください。キャリアのある作業療法士の方々の受講も歓迎しています。

日本作業療法士協会は基礎研修修了者の目標値を60%に掲げています。まだまだ目標に到達できていない状況です。奮って受講していただけますようよろしくお願いいたします。



北勢ブロック学習会 SRH58 報告

北勢ブロック地区担当 青木記念病院 堀井美奈

2018年8月26日(日)「北勢ブロック学習会 SRH58」を小山田記念温泉病院にて開催いたしました。

本年度は北勢ブロック所属の25施設、51名の方々に参加していただき症例発表(身障2例・発達1例)および、発表内容や方法についての意見交換を行いました。各分野の先輩OTから貴重なアドバイスを頂ける場となり、参加者の皆様にとって有意義な時間になったと考えております。また、平成28年度より現職者研修にて必修研修ともなっているMTDLP(生活行為向上マネジメント)についての説明、MTDLPを使った症例発表を行いました。MTDLPが作業療法の「見える化」ツールとしてすべてのセラピストが目前の患者様に活用できるよう意識を高める機会となりました。

研修会後は参加者全員の自己紹介、エリア別での意見交換も行うことが出来、近隣のセラピストと顔を合わせて語る良

い場となりました。今後も北勢ブロック全体としてスキルアップに繋がるような研修会を企画していきたいとしますので、皆様の積極的な参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

今回の症例発表会開催に当たり、お忙しい中お越し頂きましたアドバイザーの先生、発表して下さった先生方、事例検討会のご準備頂きましたMTDLP推進委員の皆様ありがとうございました。



研修会案内

第3回 三重県災害リハビリテーション研修会

- 日時／2018年12月8日(土) 14:00～17:30
- 受付開始／13:30～
- 場所／鈴鹿医療科学大学 白子キャンパス
(三重県鈴鹿市南玉垣町3500-3)

第3部 (16:10～17:10) シンポジウム

総合病院国保旭中央病院 作業療法士 今野 和成先生
「被災地支援におけるリハビリテーション - 西日本豪雨災害を体験して -」

第1部 (14:00～14:30)

全国 JRAT ならびに三重 JRAT のこれまでの変遷と課題
三重 JRAT 副委員長 辻 聡浩

第2部 (14:30～16:00) 特別講演

実際の被災地支援活動から見えてくる、リハビリテーション支援関連団体の果す役割

【シンポジスト】

総合病院国保旭中央病院 作業療法士 今野 和成先生
鈴鹿医療科学大学 理学療法士 斎藤 恒一先生
三重県中央医療センター 言語聴覚士 梅原 健先生

県 士 会 か ら の お 知 ら せ

[教育部より]

2018年度教育部では、2018年6月10日(日)に第1回現職者共通研修を津アストプラザにて開催し、受講者は30名でした。2018年7月8日(日)には、三重県立総合医療センターにて生活行為向上マネジメントMTDLP(基礎研修)を開催し、49名が受講しました。

今後は、2018年9月2日に第2回現職者共通研修、2018年10月7日には現職者選択研修(老年期)、2019年1月27日は第3回現職者共通研修、2019年2月10日には生活行為向上マネジメントMTDLP(事例検討会)を予定しています。研修会の会場や当日プログラムは県士会ホームページに掲載しますので確認してください。

[賛助会員のご紹介]

日本モッキ

〒516-0008 伊勢市船江3丁目17-19
TEL.0596-65-6039

杉山木工

〒990-0401 山形県東村山郡中山町大字長崎字中原996-6
TEL.023-662-5295

[編集後記]

今年度から一般社団法人三重県作業療法士会の広報誌『OTみえ』は電子媒体に変更しました。本号は記念すべく電子媒体1号になります。この変化は時代の変遷によるものなのかもしれませんが、いつでもどこでもネットを繋げば閲覧できるメリットを生かし、多くの方に読んでいただきたいと思います。

この広報誌が発行される前になりますが、9月には日本作業療法学会が隣県の愛知県で開催されます。おそらく三重県からの参加者は例年の学会以上に多いと思います。全国各地で行なわれている学術・研究活動を聞いて県内の活動につなげていきたいと思っています。参加された方は、広報部までお声掛けください!!

(編集:宮坂裕之、部局員:伊藤篤史、進藤直紀、岡田拓朗)

発行所

〒514-1296
三重県津市大鳥町424-1
藤田医科大学七栗記念病院内
一般社団法人三重県作業療法士会 広報部
発行責任者:田中一彦

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人三重県作業療法士会 事務局
TEL: 059-328-1260
FAX: 059-337-9511
e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp